

評価の概要

(1) 火山変動監視観測網の最適化に関する研究 (事後評価)

この研究の成果は十分上がっており、今後はルーチン化していく必要がある。また、火山噴火直前の噴火予知を行う上で、火口周辺で 10km 間隔程度の GPS 観測地点のデータがないと、数 km 地下の動きは捉えられないので、今後、なるべく密な観測体制が確保されるよう努力することが必要である。

(2) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震域の地殻変動特性に関する研究 (事後評価)

この研究の成果は十分上がっており、興味深い結果を出している。今後も、一つ一つの地震について、地震前後の地殻変動特性を丁寧に検討していく必要がある。また、地域によって地殻変動が異なることから、地域性を前面に出した研究として、さらに継続・発展することを期待している。

(3) 国土の時系列地図情報の高度利用に関する研究 (事後評価)

この研究では、実用的であり、社会的に興味深い成果を出している。この成果を広く社会的に広めることが今後の課題である。米軍のモノクロ写真に色をつけるための土地被覆分類は、人間による写真判読で行っているが、明度、彩度、テクスチャ等を利用してより効率的に判読できる手法が検討されることが望ましい。また、時点としては、もう少し古い時期から、多少時期を細かく区切って作成し、モデルケースとなるものを作ることを期待している。

(4) 測地基準系精密保持手法に関する研究 (中間評価)

この研究は中間段階では十分な成果を得ており、研究を継続すべきである。地下水の影響などによる基準点の変化を把握することにより、測量精度を向上させることも重要だが、一方でそういった影響が少ない場所に基準点を設置することについても検討すべきである。